

開催にあたって

日本生命財団は昭和54年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでの累計で**1,197件、助成総額28億1,200万円**に達しています。

当財団は、これらの研究がさらに進展し研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてテーマに関心を持たれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で34回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「**人間活動と環境保全との調和に関する研究—人と自然が共生する持続可能な地域づくり、自然災害と環境保全—**」を募集課題とする学際的総合研究に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

近年、気候変動と相俟って自然災害が我々の生活に及ぼすリスクが増大していますが、被災リスクの抑制や被害の減少に、工学的手法のみで対処するのではなく、生態系が有する防災・減災機能を十分に活用していくことの重要性が高まっています。同様に、災害からの復旧・復興についても、生態系との調和を図った持続可能なまちづくり、社会づくりが求められています。

今回の研究は、「生態系と歴史記憶を活かした防災・減災による景観再生—持続可能性とレジリエンスを高める震災復興—」と題したテーマのもとに、東日本大震災の被災地である仙台湾沿岸地域を対象として、持続可能性を担保しレジリエンスを高める復興について、生態学、防災工学、歴史学、民俗学、社会学など学際的立場から調査研究を進めてきたものです。生態系を基盤とした防災・減災機能を明らかにし、防災・減災に関する人々の伝統知の意義を再構築し、持続可能なコミュニティのあり方を景観再生という枠組で提案することを目的としています。

まず、第Ⅰ部では北海道大学の中村太士教授から「原形復旧から未来復興へ」と題して基調講演を行っていただき、次いで、研究会の代表である東京情報大学の原慶太郎教授より、研究プロジェクトの趣旨について説明していただきます。第Ⅱ部では研究チームのメンバーから、各々研究成果を発表していただきます。そして、第Ⅲ部では、ゲストの方々と交えて総合討論を行います。

このワークショップの開催が、「自然環境と調和した社会の実現」のための政策展開の契機となり、震災からの復興および環境・地域社会の再生保全に向けた活動を推進していく一助となることを強く願っています。

公益財団法人 日本生命財団
「地域の自然と歴史に学ぶ
里浜復興」研究会